

「百人一首と



かせんえ

歌仙絵について」



在原業平(綿百人一首あづま織)



小野小町(佐竹本三十六歌仙絵巻)

◆第1回 11月12日(火) 午後2時~4時
講義:「歌仙絵」とは何か?

◆第2回 11月19日(火) 午後2時~4時
講義:「小倉百人一首」の歌仙絵

※画像は「国立国会図書館
デジタルコレクション」より



■講師

りま
児玉 里麻氏

・桜美林大学 非常勤講師
・元あじさい大学講師

講座内容

「小倉百人一首」は日本人にとって、お正月のカルタでもなじみ深い文学作品です。カルタには、歌人たちの姿=歌仙絵が描かれていますが、この歌仙絵にはどのような意味が込められているのでしょうか？歌仙絵の歴史をたどり、どのように「小倉百人一首」の歌人たちが描かれてきたのか、そして、その姿から読み取れるメッセージを楽しみましょう。

■募集要領

●9月25日(水) 午前9時より電話または窓口で受付開始

●場所 大野台公民館 大会議室

●募集人数 50名(先着順)定員になるまで ●受講料 無料

●申込・問合せ 042-755-6000

●主催 公民館文化部

<裏面参照>



木もれびの森 大野台公民館

講座概要

第1回 「歌仙絵」とは何か

最初の歌仙絵である「柿本人麻呂」から、江戸時代の変った歌仙絵まで、多種多様な歌仙絵を見てみましょう。

第2回 「百人一首と歌仙絵について」

「小倉百人一首」の作者を描いた歌仙絵には、さまざまな工夫が凝らされています。

ポーズ、表情、衣服の模様、持っているものから、絵師たちのメッセージを読み解きましょう。



小野小町(錦百人一首あづま織)



在原業平(佐竹本三十六歌仙絵巻)

※画像は「国立国会図書館デジタルコレクション」より



講師のプロフィール

児玉 里麻氏 (桜美林大学非常勤講師)

お茶の水女子大学教育学部卒業・二松学舎大学文学部博士課程満了。

中古・中世文学を中心に、2001年より桜美林大学非常勤講師(現職)、および2007年～2020年まで相模原市主催「あじさい大学」講師(文学)を務める。

また「あじさい大学」OB会として「宇治拾遺物語」「小倉百人一首を人物から読む」「平安時代の天皇たち」の講座を主催。その他、府中公民館などでも講師を務める。

